

# ■ 2020年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

商学部

科目	数学
----	----

## 総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	60点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### 〈総論〉

形式は例年通り。小問集合1題と記述式2題の構成である。文系の受験生にとってかなり厳しいレベルの出題であった。[2]と[3]の(1)を確保し、[1]の(1), (2), (4)のうち2題程度を正答できれば、記述部分の部分点と合わせて十分合格圏に入るだろう。

### 〈特記事項・トピックス〉

本学部では問題文中に西暦年号が使用されることが多い。今年は[1](3)に2020が登場している。問題文には直接現れていないものの、合同式について理解していないと苦しい問題([1](2))が出題された。また、「数列」に関連する問題が3題([1](3), [2], [3])含まれている。

### 〈合格への学習対策〉

数学I A I B 全分野の標準典型問題を徹底して理解することが最低限必要である。さらに、複雑な状況を読み取る読解力、煩雑な計算を実行する体力も養ってほしい。分野としては「整数」「平面・立体図形」「多項式関数の性質」などの出題頻度が高く、本学部では特に「数列」色が突出して強い。パターンの習得も必要だが、それだけでは解決しない問題が出題されるので、一見して題意のとりにくい問題を深く思考する演習を積んでおきたい。また、典型とされる問題については、誘導形式に依存せず自発的に解答を構成する力を養うため、日頃の学習においても途中の設問をカットして最後の設問をダイレクトに考えてみるのも良い練習になる。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	空所補充				
(1)		II	積分法	多項式の定積分によって定義された関数等式から未知関数を求める。	標準
(2)		A	整数	3を法とする合同式による条件から整数解を求める。	標準
(3)		II・B	三角関数・数列	正接の加法定理を用いて漸化式を変形する。	やや難
(4)		B	空間ベクトル	四面体の角度に関する条件から未知角の余弦を求める。	標準
[2]	記述	II・B	座標平面・数列	$f(x)=x$ を満たす $x$ に着目し、条件を満たす数列を特定する。	やや難
[3]	記述	I・B	数列・不等式	数列の項の平均値に関する複雑な条件を読み解き、直観的に把握した内容を数式を用いて論証していく。	難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。